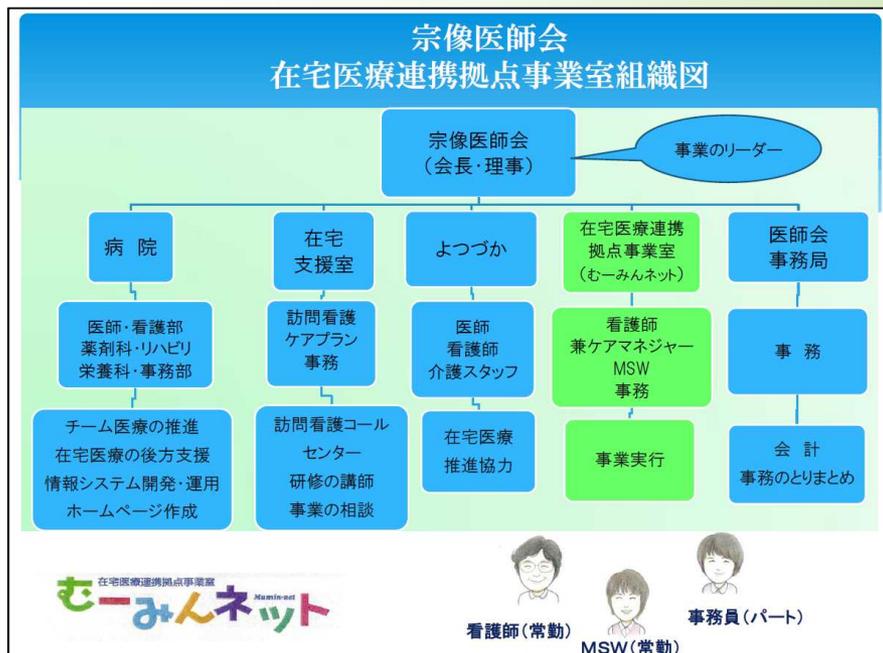


# IV

# 福岡県 宗像医師会



**定例委員会の開催**

プロジェクト委員会



担当理事・訪問看護師・病院職員・  
ケアマネジャー・老健看護師・  
医師会事務局・拠点スタッフ等

毎月開催

拠点事業運営委員会

医師会・歯科医師会・薬剤師会・  
行政(宗像市・福津市)保健所  
訪問看護師・ケアマネジャー・  
学識経験者等のメンバーで構成

年4回 開催



平成24年度 在宅医療連携拠点事業 北九州ブロック活動発表会資料. P4,P7.

[http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/pdf/renkeikyoten/2013/201301\\_02\\_block/10090255.pdf](http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/pdf/renkeikyoten/2013/201301_02_block/10090255.pdf)

- 医師会内事業所間の密な連携 → 地域住民へ直接的な支援
- 地域の行政や保健所・市自治体・専門職能団体との連携  
→ 地域の連携システムにより  
包括システム構築によるマクロな住民への支援

# IV 福岡県 宗像医師会

## 医師会だからできた事！！ できる事！！

主治医・副主治医制



多職種で吟味検討し  
ツール作成

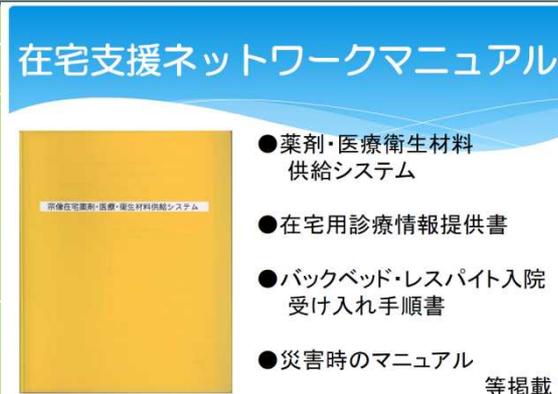
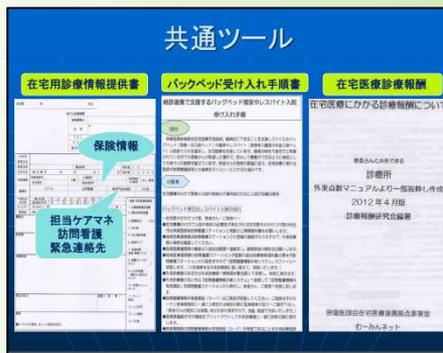
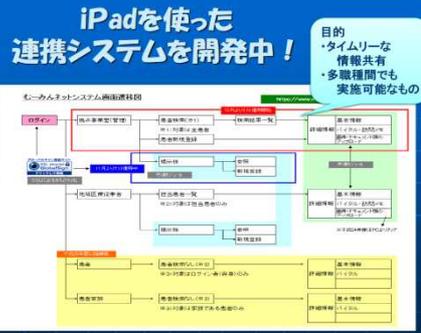
みんなが  
協力できる  
システムが  
必要

医師会病院に  
後方支援病床の設置



地域の共有資源活用に関する  
マニュアル作成

○後方支援ベットシステムが他市にも広がっている



- 薬剤・医療衛生材料供給システム
- 在宅用診療情報提供書
- バックベッド・レスパイト入院受け入れ手順書
- 災害時のマニュアル等掲載

# IV 福岡県 宗像医師会

医師会だからできた事！！ できる事！！

医師会は医療・介護を  
中心に  
地域医療活動を展開

福岡県では、県の政策として  
保健所圏域で、行政が  
緩和ケアを中心に相談・継続支援など  
地域保健活動を展開

連携

より効率的で効果的な地域包括ケア構築に  
有機的に取り組むことができた

医師会への入会率が高い地域  
地域多職種は医師会とかがわりが深い

# IV 福岡県 宗像医師会

## 宗像医師会の優れている点

○地域に根差す連携・互助

に基づいた地域貢献

○行政の活動を連動した

**医療から連携アプローチ**

○多職種が協働できる

システム作り

## 4. 今後の展望

- ①事業の継続（点を線に→線を面に）
- ②在宅医のさらなるネットワークの構築
  - ・複数の在宅医
  - ・ITを利用した情報共有  
(タイムリーに・多職種・病院も)
- ③24時間在宅医療を支えるさらなる取り組み
- ④行政機関との連携（研修の一元化等地域の拠点に）
- ⑤住民啓発→ボランティアの育成
- ⑥災害支援の継続
- ⑦地域リーダー研修の拠点（研修の事務局的作用）

平成24年度 在宅医療連携拠点事業 北九州ブロック活動発表会資料, P38.  
[http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/pdf/renkeikyoten/2013/201301\\_02\\_block/10090255.pdf](http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/pdf/renkeikyoten/2013/201301_02_block/10090255.pdf)

# 要点

○医療と介護・福祉の連携を構築することは  
意外と難しい

医療と介護の違い とは

医療＝専門性を高める事を教育されている  
現状からその先を考える専門職

介護・福祉＝

業務範囲が社会制度によって柔軟に変化する  
専門分野が医療に比べ特化しにくい

 **行政が医療・介護を有機的につなぐ**  
行政が連結役となり、住民ニーズにもとづき  
医師会等の団体をつなぐ役割が期待されている

# 要点

災害発生や、社会の変化により地域ニーズの  
激変も想定した街づくりが求められる  
＝住民がいつまでも安心して暮らせる街づくり



行政への期待

市町村が主体となり、  
地域の未来を的確に見据え、医師会等医療関係  
者と連携し、医療介護が連携した地域へと導く

# 自治体の皆様へ

住民が求める医療と介護の連携体制について  
各地域の方法で、  
住民・多職種を含めて検討してみてください

地域を包括している行政が、  
どこに支援を求め、どのように連携を促し、  
情報発信すれば有効かを検討してみてください

# ご清聴頂き 誠にありがとうございました

平成24年度 在宅医療連携拠点事業に関するお問い合わせ  
独立行政法人 国立長寿医療研究センター 在宅連携医療部  
TEL : 0562-46-5270 (直通)  
MAIL : z\_renkei@ncgg.go.jp